

街路樹の形態評価に関する一考察 —全国地方自治体を対象として—

国立大分高専 正会員○亀野 辰三
(元)東洋大学 正会員 石井 一郎

1. はじめに

近年、都市における自然環境の保存・再生が都市計画上の重要な課題となっている。とりわけ、街路樹は、生態系に配慮した環境にやさしい道づくりを実現させるための有力な手段として、また、街路景観を構成する最も主要な要素として、その存在が再認識されてきている。

しかし、実際に植栽する側の地方自治体にとって、街路樹は、樹種の選定から道路構造面、さらに維持管理まで複雑かつ多様な問題点を有しており、街路樹の存在が住民にとって迷惑物になっている例も珍しいことではない。行政と住民の双方が快適な道路環境を共有するためには、街路樹の道路計画における位置づけを明確にすると共に、街路樹を正當に評価する基準を早急に確立する必要があると思われる。

本研究は、以上の視点に立脚し、街路樹景観を構成する主要な要素としての街路樹の形態評価のあり方を検討することを目的としたものである。

ここでは、まず、我が国の各都市における街路樹の現状を把握するため、全国の地方自治体を対象としたアンケート調査の結果を報告し、それに基づき、街路樹に対する自治体側の評価とその要因との関係を検討する。

2. 研究の方法

筆者らは、全国の地方自治体の街路樹の現状を把握するため、94年の8月下旬から10月下旬までの2か月間をかけ、「都市を代表する街路と街路樹に関するアンケート調査」を実施した。調査の対象は、都道府県及び町村を除く663の市、及び23の東京都特別区、合計686の地方自治体である。

調査項目は下記に示す6つの大項目の中に各々幾つかの小項目を設定し、合計24項目である。回答は、街路及び街路樹を担当する技術者に行っていた。

問A) 都市を代表する街路について

問B) 問Aに植栽されている街路樹について

問C) 街路樹の維持管理について

問D) 街路樹の評価について

問E) 街路樹をめぐる問題点・話題等について

問F) その他

本研究では、調査項目の内、問A)「都市を代表する街路」及び、問B)「都市を代表する街路に植栽されている街路樹」並びに、問D)「街路樹の評価」を採りあげることとする。また、調査対象都市にはかなりの人口規模の格差があることから、ここでは都市の規模を次の4つに分類して分析することにした。

①大都市(人口50万人以上)、②中都市(同10万人～50万人未満)、③小都市Ⅰ(同5万人～10万人未満)、④小都市Ⅱ(同5万人未満)

3. アンケート調査の結果

〔1〕アンケートの回収状況(表1)

調査内容の性質上、回答する部署が複数に跨がる困難な調査にもかかわらず、合計585の自治体から回答が寄せられ(回収率:85.3%)、本調査に対する高い関心を伺うことができた。

表1 アンケート回収状況

	対象数	回収数	回収率(%)
市	663	566	85.4
特別区	23	19	82.6
計	686	585	85.3

〔2〕都市を代表する街路について

本調査によって、これまで我が国ではほとんど知られていなかった各都市を代表する街路(以下「代表的街路」と言う)が明らかになったが、ここでは触れないことにする。表2は、代表的街路を周辺の土地利用の状況によって、5つの地域に分類したものである。これによると、「駅前付近

（都心商業地を含む）」の街路を挙げた自治体が44.3%を占め、次に「住宅地」が29.2%で続き、全体の73.5%がこれら2つで占められている。

表2 代表的街路周辺の土地利用状況

周辺の土地利用状況	都市数	割合 (%)
駅前付近（商業地）	259	44.3
郊外商業地	45	7.7
住宅地	171	29.2
工業地	12	2.0
その他（上記以外）	73	12.5
該当なし	25	4.3
合 計	585	100.0

〔3〕都市を代表する街路に植栽されている街路樹について

図1に、代表的街路に植栽されている街路樹の樹種（上位10種）を挙げた。図によると、ケヤキを採用している自治体が174都市で断然多く、都市の顔となる街路には整った格調高い樹姿をもつ大高木であるケヤキが好まれていることが分かる。第2位にイチョウが93都市で採用され、第3位にクスノキが挙げられている。以下、サクラ類、ハナミズキ、トウカエデ、という順である。従来街路樹の主流を占めていたプラタナスが減少し、代わってハナミズキが急速に普及している。

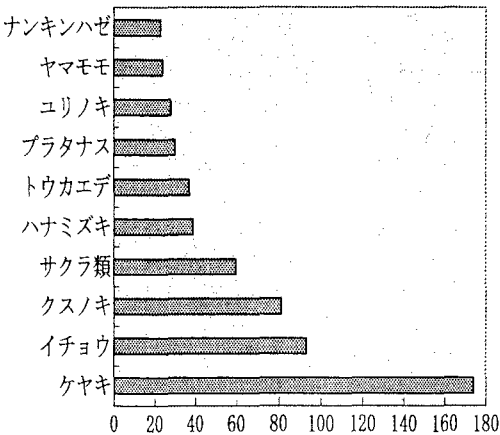


図1 代表的街路における使用樹種

4. 街路樹に対する自治体側の評価

街路樹に対する自治体側の評価を表したのが表3である。「大変良い」と「良い」を合計すると

64.1%の自治体が街路樹に対して「良い」と回答している。それに対して「悪い」と答えた自治体は7.7%に過ぎず、2/3 近くの自治体は、自らの街路樹に対して好意的な評価を下していることが分かる。これを都市規模別にみると、小都市Ⅱ→小都市Ⅰ→中都市→大都市の順で街路樹に対して「良い」の評価が多くなっている。

また、樹種構成でみると、単一樹種が55.7%、複数樹種が44.3%と単一樹種の方が多い。

表3 街路樹に対する自治体側の評価

分類 評価	大都市	中都市	小都市Ⅰ	小都市Ⅱ	合 計 (%)
大変良い	9 37.4	56 29.9	29 15.6	33 17.6	127 21.7
良 い	12 50.0	76 40.6	85 45.7	75 39.9	248 42.4
普 通	1 4.2	37 19.8	55 29.6	45 23.9	138 23.6
悪 い	1 4.2	11 5.9	5 2.7	18 9.6	35 6.0
大変悪い	1 4.2	2 1.1	6 3.2	1 0.5	10 1.7
無回答	0 0.0	5 2.7	6 3.2	16 8.5	27 4.6
合 計	24	187	186	188	585

上段：都市数 下段：割合

5. おわりに

本研究は、街路樹に対する自治体側の評価構造が、どのような要因によって形成されているのかを全国の地方自治体を対象としたアンケートによって知る試みであった。

現在、代表的街路の内、駅前付近の街路を対象として、自治体側の街路樹に対する評価と表4に示す評価の要因との関係について分析を行っており、研究発表会の席上、それらの結果を報告する予定である。

表4 評価の要因

- a. 横断構成との関係（総幅員・歩道幅員・車線数等）
- b. 緑量の豊かさ（キャノピー率等）
- c. 植栽構成（列数・層数・樹種数等）等